

# 県立高校未来共創事業

## 1 現状・課題

現状	〔進路選択の多様化〕 R7一次入試で、全日制の受験倍率が0.99倍（R6は1.01倍）。私立高校への入学者数は前年比で約200名増
	〔専門学科の欠員増〕 R7の一次入試における専門学科の志願倍率は、県全体で0.85倍、地域の高校では0.79倍（全日制課程は1.02倍）
	〔高校授業料無償化〕 R8.4から、私立高校を対象に加算されている就学支援金の上限額の所得制限を撤廃し、実質授業料が無償化 〔検証委による答申〕 各地域、各学校、各学科の特性等に応じて、自校の魅力づくりに生かすことが必要との提言
課題	〔探究的な学びの充実〕 学校が小規模化する中、地域や関係企業等と学校とを繋ぎ、 <b>連携を促進する役割を担う人材の配置</b> が必要
	〔専門学科校の特色化〕 専門学科の <b>学科改編や企業等と連携した特色ある科目の設置</b> など、他校との学びの差別化が必要
	〔県立高校の情報発信〕 県内外の小中学生、保護者及び教員に向け、 <b>対象に応じて、必要な情報や体験を提供</b> することが必要 〔特色ある取組の支援〕 県立高校が自校の魅力化・特色化の <b>手立てを自ら講じて学校づくりを進めることへの支援</b> が必要

## 2 取組の方向性

◎「連携体制共創」「情報発信共創」「活動充実共創」の3本柱による、県立高校の未来共創を行う。

連携体制共創	情報発信共創	活動充実共創	期待される効果
<p><b>(1) 地域コーディネーター配置支援</b> <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">新</span></p> <p>地域資源・地域人材の発掘により地域と学校をつなぐ存在となる地域コーディネーターを希望する高校に配置し、<b>地域と連携した学びの充実</b>を図る。</p> <p><b>(2) 学校運営協議会の活動支援</b></p> <p>地域の学校の将来像や支援の手立てなどを具体的に検討し、<b>地域とともに</b>ある学校づくりを推進</p> <p><b>(3) 全国募集実施校への支援</b> <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">新</span></p> <p>①市町村が県の遊休資産等を活用して学生寮を整備する場合の支援 ②全国募集実施校の学びの充実支援</p>	<p><b>(1) 県内情報発信</b></p> <p><b>①「県立高校ナビ」の作成・配布</b></p> <p>各県立高校・各学科の特徴を一元的に掲示したリーフレットを作成し、<b>中学3年生に配布</b></p> <p><b>(2) 全国募集情報発信</b></p> <p>他県の中学生が進んで本県の高校を選択し、多様性と活力が生まれるよう県外向けに個別相談会の実施やリーフレットの配布</p>	<p><b>「ふるさと納税」を活用したクラウドファンディング</b> <span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">新</span></p> <p>県教委によるクラウドファンディングを実施。全県立高校においては、<b>学習活動、特別活動の充実</b>を目的とした具体的な手立てを企画して参加</p> <p><b>「学習活動」の充実</b> (例) 海外姉妹校との協定締結</p> <p><b>「特別活動」の充実</b> (例) 新設の吹奏楽部の楽器購入</p> <p><b>(寄付：個人・企業の両方を想定)</b></p>	<p>○地域、関係企業等、外部人材の活用により、<b>実社会と繋がる探究的な学びが全校で充実</b></p> <p>○時代の要請、産業界のニーズ、生徒の希望等に応じた<b>特色ある学びを各専門学科校で展開</b></p> <p>○対象に応じて必要な情報、体験の機会を提供することで<b>小中学生が県立高校の魅力を理解</b></p> <p>○自校の魅力化に向けたオリジナルの企画を主体的に考えることで<b>各校の差別化、特色化が進展</b></p>